

クロッサンドラ トロピック・シリーズ

地温の下がりにくい街中の花壇でもしっかり育つ夏花壇の逸品

- オレンジとイエロースプラッシュの2色によって彩色豊かな夏の花壇が演出されます。
- **トロピック・シリーズ**は、温度の高い条件でも損失の少ない夏場の造園向けとして最適な植物です。フロリダやテキサス、東南～南アジア、ヨーロッパ南部などの亜熱帯(一部熱帯)の気候ではその機能の高さが十分に認識されます。
- **クロッサンドラ・トロピック・シリーズ**は、花壇定植(丈は約25cm)に向けた植物ですが、インドア向けのポットプラント(丈は約15cm)に供与してもその独特の装いを堪能できる植物です。

本品種の学名: *Crossandra infundibuliformis*
種子粒数: 218 粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイサイズ

392 穴ないし 406 穴、あるいはそれよりも大きなサイズのプラグトレイを用います。

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いましょう。
pH5.8-6.2、EC 値*を 0.75mmhos/cm(1:2)に調整します。

播種

粗めのバーミキュライトを用いて、中くらいの厚みで覆土をします。これによって、種子の周囲に水分が維持され、発芽が促されます。発芽には7-10日かかりません。

温度

発芽温度: 25-28°C
子葉展開後: 21-22°C
本葉展開後: 21-22°C

発芽時の温度が25°Cを下回ると発芽が遅れ、期間として2週から4週かかることもあります。これは、プラグ苗のサイズや活力にバラツキをもたらし、後々まで影響する可能性があります。

プラグ苗は成熟期から移植までの間、21-22°Cの温度下で安定させます。しっかりした、健康な色づきの苗に仕上げるに、育苗の最終ステージでしっかり温度を下げるのが重要です。温度が低いと植物中のリンが上手く利用されないため、苗の色が紫色に変わることがあります。

照度

発芽時: 不要
発芽後: 10,000-15,000 ルクスに調整

湿度

子葉展開までは相対湿度を95%に維持します。発芽後は、ピシウム等の菌による根腐れの懸念があるので、培地が水分過剰にならないようにします。培地はドライな条件が管理の基本ですが、極端なドライによって苗を枯らせないように注意しましょう。

肥料

子葉が十分に展開したら、14-0-14 と 20-10-20 の肥料を交互に、各々50-75ppm で施肥を開始します。本葉が展開したら、今度は濃度を100-150ppm にまで上げましょう。その際、pHが5.8-6.5、EC 値*は0.75-1.0 mmhos/cm(1:2)の範囲にあることを確認しましょう。

矮化剤(PGR)

基本的に矮化剤は不要です。必要であれば、節間調整等にはB-ナインが有効です。

鉢上げから出荷までのステージ

コンテナサイズ

クロッサンドラは、10-15cmのポットへ鉢上げするのが最も適当です。苗の移植本数の目安としては、10cmポットに1本、15cmに3本くらいです。

用土(培地)

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用い、土壌の初期用分量は中庸とします。土壌pHは、5.8-6.2。

温度

クロッサンドラは温度が高く、また照度、湿度ともに高い環境下でとても旺盛に育つ植物です。したがって、昼間温度を20-24°C以上、夜間温度を24-26°C以上の環境に置くようにしましょう。

温度が7°Cを下回るような環境では、葉が黒色に変色し脱葉することがあるので注意しましょう。

照度

25,000-35,000 ルクスを維持しましょう。

湿度

湿度は高く維持しましょう。

かん水

培地はドライな条件が管理の基本ですが、極端なドライによって苗を枯らせないように注意しましょう。

肥料

かん水時に、15-0-15 あるいは 15-5-15 の肥料を 150-200ppm で追います。葉の生育が弱い場合は、窒素分を補うため適宜 20-10-20 に切り替えます。その際、培地の EC 値*が 1.0mmhos/cm(1:2)を大きく超えないことを確認しましょう。

矮化剤(PGR)

基本的に矮化剤は不要です。必要であれば、節間調整等には B-ナインが有効です。

平均的な生産期間

播種から鉢上げ(392/406 穴トレイ): 6-7 週
鉢上げから出荷(10cm ポット): 13-14 週(北部)
10-11 週(南部)

気温の上がらない寒冷地等では、気温、湿度とも高く十分な日照の得られる、夏場から秋口にかけて出荷する作型を推奨しています。

予想される一般的な障害

害虫: アブラムシ、ダニ類、ホワイトフライなど

病気:

(*Pythium* 菌による) 褐根病: 症状としては根が茶色く変色し軟化する。合衆国では、抗生物質系、ベンゾイミダゾール系の殺菌剤を灌注すると抑制効果が見られますが、日本国内では使用基準に基づいた、使用可能な殺菌剤等を適切に用いるようにしましょう。

(*Rhizoctonia* 菌による) 褐斑・黒斑病: 根に異常はなく、茶褐色あるいは黒色の病斑が培地の表面にそって茎に現れる。合衆国では、チオファネート-メチル系の殺菌剤を灌注すると抑制効果が見られますが、日本国内では使用基準に基づいた、使用可能な殺菌剤等を適切に用いるようにしましょう。

2005 年 8 月 改定

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

®および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

© 2002 Ball Horticultural Company Printed In USA PAS02145 12/02
Originally issued as PAS02145 in USA, and under permission translated into
Japanese and revised in 2005. Printed in Japan